

# クラス担任のための Career Guidance

2016 >> VOL.34

キャリアガイダンス 特別編集



## 論理力を鍛えて

# 「聴き合い」「伝え合う」力を伸ばす

取材文／清水由佳ライター・キャリアカウンセラー

グループワークでの話し合いが苦手、自分の考えを伝えるのが苦手。そんな生徒たちの「苦手」を、論理トレーニングによって克服していくヒントをご紹介します。

## 論理力はトレーニング次第 練習の積み重ねが大事

アクティブ・ラーニングや入試改革などによって、自分の考えを伝えたり、議論したりする機会が増えている昨今の高校生。しかし、論理的に考え、表現するのが苦手で、苦勞する生徒が多いのも事実だ。

東京大学教養学部で、初年度教育として「論理トレーニング」を指導する野矢茂樹教授によると、論理力はトレーニング次第だという。

「あ・うんの呼吸で言わなくてもわかる」という状況を期待せず、明晰な言葉遣いで相手に伝える力を身に付けるのが論理トレーニングです。論理的な言葉を使うには、知識を学べばどうにかなるものではありません。心掛けてトレーニングする必要があります。テキストの知識がいくらあってもプレーが強くなるわけではなく、練習の積み重ねが重要な点と同じように、一つひとつ普段から練習していくしかありません」

「いろいろな意見がありますね」  
では話し合いにならない

そんな野矢教授の論理トレーニングの授業では、接続詞の使い方や質問の仕方、反論の仕方などを、文章題を基にトレーニングしていく。例えば2つの内容の文章をどのような接続詞でつなぐか考える場合、単に正解を出すだけでなく、学生がそれぞれなぜその答えになったのか、他の答えがなぜ違うと思うのか、学生同士でやりとりし合う。

「このやりとり自体が、良い練習になるんです。ここで大事なことは、意見を明確に述べることはもちろんですが、それ以上に、人の意見を、聴く、ことです。生徒同士が、自分たちが言ったことを聴いて、共有して、それに対して応答していく。単に「私はこう思う」「僕はこう思う」と意見の言い合いをして「いろんな意見がありますね」

ねーだけでは話し合いになりません。必ず、なぜそう思うのか根拠を示し、さらに、相手の言ったことで納得いかないことは、どうして納得いかないかちゃんと説明する。その繰り返しが大切です」

それはまさに、アクティブ・ラーニングなどで行うやりとりにも通じる。必ずルールを決めてやりとりを行うことが、トレーニングになるのだ。

## 論理的な言葉を技術として身に付け 人間関係も変化していく

論理的に話すことに不慣れな生徒が多いことに関して、「根拠を言う」との意識が薄いというより、そもそも相手を説得しようとする意識が薄いのかも知れませんね」と、野矢教授は指摘する。

「今の生徒たちは、基本的な人間関係において、なるべく対立を表面化させないように、健気なほどに心を砕き

もって意見を言う。相手の言ったことに対して何で納得できないか説明する。それらを場のルールとして定め、一つひとつ教師が伝えます。こういう授業なんだとわかれば、生徒はがんばって発言しようとするでしょう。普段の生活では人はなかなか変われないのですが、教室の中で、教師が人為的にそういう環境を作ることが心掛けてください。まさに、教師だからこそできる指導だと思います」

ます。そのため、自分が言ったことで相手が動かなければ、すぐ撤退して関係を切り離してしまう。優しさが、相手との関係を深める機会を閉ざしてしまふんです。逆に言えば、わかってもらおうとすること、納得してもらおうとすることを、スキルとして身に付けていけば、人間関係も変わってくるかもしれません(図1)

論理トレーニングは、そんな可能性も秘めている。  
「第1歩は、自分が言ったことをわかってもらえたという喜びを感じることに。その次が、自分の意見に反対していた相手が賛成してくれるようになったという喜び。そして、さらに上の喜びは、相手の言ったことによって自分の考えが変わる喜びを味わうこと」

す。相手が自分の発言を批判したり否定したりしても、人格を否定していいわけではないと本心に身に染み込めれば、安心して相手の批判を自分の中で検討できます。そして、批判されたことを「そうか」と、喜びをもって受け入れられる。これが一番上のレベル。そんな最終段階を目標に示すことも大切ではないでしょうか」



東京大学教養学部  
野矢茂樹教授  
1980年、東京大学教養学部教養学科卒業。1985年、東京大学大学院博士課程を修了し、北海道大学文学部助教授などを経て、2007年より現職。主な著書に『はじめて考えるときに』(PHP研究所)、『新版論理トレーニング』(産業図書)、『哲学な日々』『心という難問』(講談社)など多数。NHK・Eテレ高校講座『ロンリのちから』監修も。



『論理トレーニング101題』  
(産業図書)

文章を的確につなぐ接続詞を考えたり、文章の構成を分析したりする101題の問題を解く中で、論理力を徐々に身に付けていく。あとがきに、「御百度を踏むような」という表現があるが、まさにそのような地道なトレーニングの連続だ。

### HRにおすすめ「質問トレーニング」

「聴く力を付けていくためにも、質問のトレーニングは非常に大事だと思います。特に、HRなどで、生徒同士で互いに質問をしようワークは、批判や反論などよりもずっと取り組みやすい論理トレーニングです」(野矢教授)

#### STEP1

#### 相手から話を聞き出す質問ワーク

「何かベットの飼っていますか?」など、相手から情報を引き出すように聞いていく。相手に興味をもち、相手の知らない部分を聞いていく。人間関係づくりや、クラスの雰囲気づくりにもつながる。

#### STEP2

#### 相手が話したことや、書いた文章の中で、わからないことや納得できないことを聞いていく質問ワーク

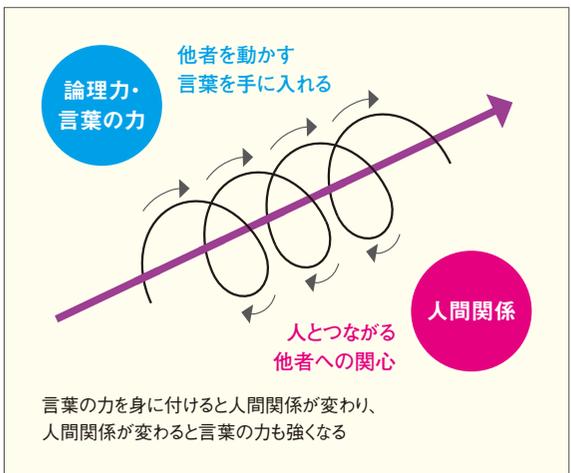
調べ学習の発表を聞いたり、作文・自己紹介文など本人が書いた文章を読み、一つひとつ「これはどういうこと?」など丁寧に尋ねていく。わからないことを「わからない」と伝えるだけでもOK。「わからない」ことが恥ずかしいものではないという雰囲気づくりから、「質問する力は大事なんだ」という理解につながれることが大切。

### 話し合いの場のルール

- 人の意見を聴く
- 根拠をもって意見を言う
- 相手の示した根拠に対してもしっかりと応答する
- 相手の言ったことに対して、何で納得できないか説明する

「議論の場で、本人は反論しているつもりでも、かみあっていないと感じることがよくあります。相手に反論しているようである、実は自分の言いたいことだけを言い合い、水掛け論になっている。話し合いに積極的に参加する学生でも、そうなりやすく、難しいんです。そのために場のルールを徹底し、自分の意見の根拠を言う習慣を身に付けることが大事です」(野矢教授)

図1 論理力(言葉の力)と人間関係



# Career Guidance

キャリアガイダンス

進路指導・キャリア教育の専門誌



【最新号】Vol.414 2016年10月発行

#### 特集

#### 「授業」で社会を生きる力を育む

- 3人の教師が語る、私の授業観  
岩佐純巨先生(鈴鹿高校・三重・私立)  
跡部弘美先生(福岡高校・福岡・県立)  
高橋一也先生(工学院大学附属中学校・東京・私立)
- 次期学習指導要領が目指す「社会に開かれた教育課程」の実現  
荒瀬克己(大谷大学教授/中央教育審議会 教育課程部会委員)
- 社会につながる11の授業
- 連載  
● 進路指導実践を磨く!  
百石高校(青森・県立)
- これからの推薦・AO入試指導 Season2  
第8回「高校生活でつける「マイテーマ」を設定する力」

『キャリアガイダンス』誌は全国の高校に贈呈しています(校長、教頭、副校長、進路指導主事先生宛に郵送)バックナンバーの記事はすべてWEBサイトで閲覧いただけます

http://souken.shingakunet.com/career\_g/

キャリアガイダンス

検索